

沖縄での学びを、地域でいかす

関和美

亀田総合病院図書室

【はじめに】

2011年に沖縄県で開催された、病院図書館の研修会に参加した。臨床研修の話が中心の、沖縄らしい研修会であった。その研修会の学びから、自分の住んでいる地域(千葉県安房地域)の状況と共通点があるのではないかと考え、調査を行った。

その調査内容を報告させていただくとともに、そこからの学びを足もとの地域でどのようにいかしていきたいかという展望を述べさせていただきたい。

【調査内容】

1. 沖縄を通じて、病院(医療機関)をみる

『南風原文化センターハンドブック』(沖縄資料)、『安房医師会誌』(安房資料)を参考に、医療機関について考えてみる。

2. 沖縄を通じて、安房の地域課題、医療者不足の問題をみる

研修会の講演内容や『沖縄県医師会史 2』(沖縄資料)、統計資料や報道資料・病院からの資料(安房資料)を参考に、医療者不足の問題について考えてみる。

3. 沖縄を通じて、病院図書館をみる

沖縄の戦後医療者不足からの克服について調査中に発見した『沖縄県医師会史 2』『全国自治体病院協議会雑誌』に掲載されていた、病院図書館や医学図書館の設置に関する記述について紹介する。

【今後の展望:沖縄での学びを地域でいかす】

今回の調査を通じて感じたことは、医療など現代社会が抱える課題と向き合い、克服していくためには、歴史や先人達の知恵より学べるものが多くあるのではないかと、ということである。その地域の歴史や先人達の知恵をよく知っているのは、そこに住む市民ではないだろうか。

現代社会が抱える課題を克服し、安心して暮らし続けていけるまち(社会)へ。そのために自分は何ができるのだろうか。今までは病院図書館員として、市民や医療者といった「人」と「(医療健康)情報」をつなげる役割を果たしてきたが、これからは市民という「人」と医療者という「人」をつなげる役割も果たしていけたらと考えている。